

10月31日(土曜日)「人の前でも」

【新改訳 2017】

ルカ 12・8、9

「……だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。しかし、わたしを人の前で知らないという者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。」

これも主イエスのおことばです。一見厳しいように思われますが、適当にパスしてしまうことはできません。

実は、多くの教会では、パプテスマ(洗礼)を受ける人は会衆の前でその信仰の証しをします。それはこのおことばの祝福を自分のもとするためであり、求道中の人たちを励ますことにもなります。しかし、中には「隠れ信者」のように、家族のだれにも友人にも話さないで、会衆の前での証しもしないで受洗を希望されることがあります。例外はあり得るかもしれませんが、主のおことばに従っているとは言えないでしょう(10月5日の日課も参照)。

また、洗礼に限らず、日々の生活の中ではどうでしょうか。キ

リスト者ぶる必要はありませんが、告白すべき時にはするよう
な信仰者でありますように。

～祈り～

主よ。あなたは、ご自身のいのちを捨てて、罪からの救いと永
遠のいのちをお与えくださいました。どうか、人の前で、あな
たを明確に認め、証しする者であらせてください。

【学びのために】。

きょうは、一般に「宗教改革記念日」として知られています。ド
イツのマルチン・ルターが、当時カトリック教会の中で行われて
いた免罪符販売に反対して、「95箇条の提題」をヴイッテンベ
ルク城教会の扉に掲げた1517年10月31日を記念する日。